

## 平成27年5月定例記者会見

日時 : 平成27年5月19日(火) 13:30~  
場所 : 本学事務局3階第1会議室  
内容 :

1. 「第4回国際技学カンファレンス in 長岡」の開催について  
(第4回国際技学カンファレンス in 長岡運営委員会委員、  
技術科学イノベーション専攻 小林高臣 教授)
2. 新技術説明会の開催について  
(知的財産センター副センター長、機械創造工学専攻 田辺郁男 教授)
3. 「ロボットにふれて、未来を語ろう」の開催について  
(男女共同参画推進委員会委員、システム安全専攻 岡本満喜子 准教授)
4. NHK学生ロボコン2015本大会への出場について  
(ロボコンプロジェクト代表、機械創造工学課程4年 伊藤慎一郎)
5. その他
  - ・赤十字水上安全法講習会の開催について
  - ・第1回 長岡技術科学大学地元交流集会

以 上

# THE 4<sup>th</sup> INTERNATIONAL GIGAKU CONFERENCE IN NAGAOKA (IGCN2015)

## 第4回国際技学カンファレンス in 長岡

(DATES) 19<sup>th</sup> june (fri) – 21<sup>st</sup> june (sun), 2015  
2015年6月19日(金) ▶ 21日(日)

Conference Venue / Nagaoka University of Technology  
会場 / 長岡技術科学大学

Organizer / International GIGAKU Conference  
in Nagaoka Organizing Committee  
主催 / 国際技学カンファレンス in 長岡組織委員会

Contact E-mail / [igcn@gigaku.org](mailto:igcn@gigaku.org)  
お問い合わせ / E-mail [igcn@gigaku.org](mailto:igcn@gigaku.org)

<http://igcn.gigaku.org/>

GIGAKU is a term composed of two Japanese word-roots; GI and GAKU. The word GI[技] literally stands for all kinds of arts and technology, and GAKU[学] stands for scientific disciplines in general when used as a suffix. The term was originally coined to describe the fundamental philosophy of education and research of NUT when it was established in 1976. Through this term the founders of NUT intended to express their recognition that all technical challenges in the real world require a scientific approach.





# THE 4<sup>th</sup> INTERNATIONAL GIGAKU CONFERENCE IN NAGAOKA (IGCN2015)

## 第4回国際技学カンファレンス in 長岡

### 会議プログラム

6/19 (Fri)

- プレイベント  
海外展開交流サロン  
Pre-Event "Go Overseas" Salon
- オプション地元ツアー  
(昨年実績)  
・小千谷錦鯉の里  
・朝日酒造見学
- キャンパス・研究室見学  
【長岡技術科学大学】

6/20 (Sat)

- 基調講演
- ポスター発表
- 分科会セッション
- ポスター発表・表彰  
懇親会【会場・長岡グランドホテル】

6/21 (Sun)

- 分科会セッション

### 分科会構成

Material Design  
Green Technology  
Innovation & Branding  
Safety Society & Technology  
GIGAKU Education  
Techno Park

※発表は口頭またはポスター。各セッションでの基調講演も予定されています。  
※使用言語は原則、英語で行います。  
※会議プログラムの詳細については、会議ウェブサイトですぐ発表します。

### 参加方法

- 会議ウェブサイトより参加の申込みをしてください。
- なお、本会議への参加には以下の参加登録料等が必要となります。
  - ・参加登録料／(一般参加者) 30,000円  
(高専教員) 5,000円  
(学生) 無料
  - ・懇親会費(6月20日)／5,000円

※会議参加の詳細については、下記連絡先までお問い合わせください。

### 会場(長岡技術科学大学)までのアクセス

- JR 東京駅から長岡駅まで上越新幹線で…約90分
- 高速道路 関越自動車道、北陸自動車道長岡I.Cから…約5分
- バス 長岡駅大手(西)口7番線から技大前行き乗車…約30分
- タクシー 長岡駅大手(西)口から8.5km…約20分

### お問い合わせ

国際技学カンファレンス in 長岡運営委員会事務局 E-mail [igcn@gigaku.org](mailto:igcn@gigaku.org)  
技学カンファレンスウェブサイト <http://igcn.gigaku.org/>



# 長岡技術科学大学・新潟工科大学

# 新技術説明会

計測・材料・製造技術

ライセンス・共同研究可能な技術(未公開特許を含む)を発明者自ら発表!

2015年5月26日(火) 13:20~16:30(12:50開場)

JST 東京本部別館ホール(東京・市ヶ谷)

- 主催 ● 国立大学法人長岡技術科学大学  
学校法人新潟工科大学  
国立研究開発法人科学技術振興機構
- 後援 ● 公益財団法人長岡技術科学大学技術開発教育研究振興会、  
中小企業基盤整備機構、全国イノベーション推進機関ネットワーク

| プログラム                    |  |
|--------------------------|--|
| 13:20                    | 開会   |
| 13:20 - 13:45<br>①計測     | 超音波による物体内部温度センシング法と高性能超音波プローブ<br>長岡技術科学大学 技学研究院 機械創造工学専攻 教授 井原 郁夫            |
| 13:50 - 14:15<br>②計測     | レーザーキャナ計測による作物の生育診断方法<br>長岡技術科学大学 技学研究院 環境社会基盤工学専攻 准教授 高橋 一義                 |
| 14:20 - 14:45<br>③材料     | 構造を特徴とする複合材料作製技術と異種接合界面機能化<br>長岡技術科学大学 産学融合トップランナー養成センター<br>産学融合特任准教授 多賀谷 基博 |
| 14:50 - 15:15<br>④材料     | ハイドロキシアパタイト系可視光応答型光触媒<br>長岡技術科学大学 技学研究院 物質材料工学専攻 助教 西川 雅美                    |
| 15:20 - 15:45<br>⑤製造技術   | 世界に1つだけの新素材を創生するためのソフトウェア「魁」<br>長岡技術科学大学 技学研究院 機械創造工学専攻 教授 田辺 郁男             |
| 15:45 - 16:05<br>●機関事業紹介 | ・長岡技術科学大学知的財産センター副センター長 田辺 郁男<br>・新潟工科大学 理事・副学長 原 利昭                         |
| 16:05 - 16:30<br>⑥材料     | 生体用高強度低弾性チタン合金の開発<br>新潟工科大学 工学部 機械制御システム工学科 教授 村山 洋之介                        |



|  |   |
|--|---|
| 1<br>13:20~13:45   | <b>超音波による物体内部温度センシング法と高性能超音波プローブ</b><br>New ultrasonic thermometry for internal temperature profiling and High performance long buffer rod for ultrasonic pulse-echo measurements   |
| 計測   | 長岡技術科学大学 工学研究院 機械創造工学専攻 教授 井原 郁夫<br>Ikuo IHARA, Nagaoka University of Technology<br><a href="http://mcweb.nagaokaut.ac.jp/~ihara/">http://mcweb.nagaokaut.ac.jp/~ihara/</a>   |
| <b>■新技術の概要</b><br>(1) 超音波を用いた高温物体の内部の温度分布ならびに加熱面の温度を非破壊的にモニタリングする手法を提供する。<br>(2) 高温物体などの測定に適した、製作が容易で SN 比の高い超音波導波棒を提供する。<br><b>■従来技術・競合技術との比較</b><br>(1) 従来の超音波による温度計測では、温度分布や加熱面温度を求めることが困難であったが、本手法ではこれを可能にするものである。<br>(2) 従来の超音波導波棒を用いた測定では、不要なノイズを抑制するために導波棒の周囲にネジ加工を施したり、テーパ加工を施すなどの措置がとられていたが、それらの加工は容易ではなかった。本発明は単純な多角形ロッドを用いることでこれを改善したものである。 | <b>■新技術の特徴</b><br>(1) 加熱材料の内部や内側の加熱面温度を非破壊、非侵襲で測定することができる。超音波の特徴を生かすことで時間応答性および空間分解能の高い温度プロファイリングが可能となる。<br>(2) 導波棒の断面形状が多角形のため、加工が容易で該導波棒の保持、試験体への設置が容易となる。細長い超音波プローブ(導波棒)が実現できたため、高温環境など、各種の過酷環境での超音波計測が可能となる。<br><b>■想定される用途</b><br>(1) 熱電対や赤外線による温度測定が困難な場所・対象の温度測定 - 加熱材料や材料加工プロセスのオンラインモニタリングなど<br>(2) 細長い導波棒の使用が要求される超音波パルスエコー計測 - 高温物、物体内部、狭小領域の超音波計測 |

|  |   |
|--|---|
| 2<br>13:50~14:15   | <b>レーザスキャナ計測による作物の生育診断方法</b><br>A Method for Diagnosing Crop Growth using Laser Scanner Measurements        |
| 計測   | 長岡技術科学大学 工学研究院 環境社会基盤工学専攻 准教授 高橋 一義<br>Kazuyoshi Takahashi, Nagaoka University of Technology                |
| <b>■新技術の概要</b><br>作物が大きく生長する時期を対象とした生育診断方法。この診断方法の特徴は、レーザスキャナ(レーザレンジファインダ)を用いることで、天候の影響を受けにくく、かつ地面計測・検出処理を必要としない点である。<br><b>■従来技術・競合技術との比較</b><br>葉色をカメラなどで計測する診断方法にくらべ、天候に左右されず安定した生育診断が可能。作物の形状に関する測定項目(たとえば、草丈など)の計測へ応用が可能。 | <b>■新技術の特徴</b><br>天候に左右されず計測が可能(早朝や夜間での計測も可能)<br><b>■想定される用途</b><br>・植率により生育度を測定可能な作物への応用<br>・無人航空機による生育度測定 |

|  |   |
|--|---|
| 3<br>14:20~14:45   | <b>構造を特徴とする複合材料作製技術と異種接合界面機能化</b><br>Fabrication Techniques of the Composites Containing Unique Structures and Functional Heterointerfaces  |
| 材料   | 長岡技術科学大学 産学融合トップランナー養成センター 産学融合特任准教授 多賀谷 基博<br>Motohiro Tagaya, Nagaoka University of Technology<br><a href="http://souran.nagaokaut.ac.jp/view?l=ja&amp;u=100000181&amp;i=e19&amp;sm=name&amp;sl=ja&amp;sp=2">http://souran.nagaokaut.ac.jp/view?l=ja&amp;u=100000181&amp;i=e19&amp;sm=name&amp;sl=ja&amp;sp=2</a> |
| <b>■新技術の概要</b><br>諸目的に応じた“無機と有機・高分子”および“無機と金属”の界面化学結合を創出する研究開発を推進してきた。異種材料の界面反応を精密に制御することにより、高機能な光応答界面、高強度界面、分子担持界面等の新機能を見出した。本発表では、産学融合研究に向け、発光・発色材料、高強度材料、ドラッグデリバリーシステム及び電極材料などへ実用可能な複合材料作製技術と異種接合界面機能について紹介する。<br><b>■従来技術・競合技術との比較</b><br>従来の複合材料作製は、液相反応に基づいた技術が主であった。本技術は、固相反応によって“無機と有機・高分子”または“無機と金属”の界面化学結合を創出する技術である。これまでにない異種界面接合と高機能化が実現しており、簡便で量産可能な環境低負荷プロセスが可能である。以上の観点より、新規性・独創性が高い技術であり、産学融合による実用化が急務である。 | <b>■新技術の特徴</b><br>・簡便な固相反応プロセス(有機溶媒フリープロセス)による複合担持機能<br>・高強度材料プロセス<br>・導電能、触媒能、及び、発光・発色能を創出する新規材料プロセス<br><b>■想定される用途</b><br>・養殖網、抗菌フィルター、義足、及び、自動車・自転車の車体、等の高強度性が求められる材料<br>・導電性材料、触媒材料、及び、ドラッグデリバリーシステム、等の表面特性が重要な材料<br>・有機 EL 素子材料や発色型素子材料などの発光物質の分散・凝集制御が重要な材料   |

|   |  |
|---|--|
| <b>4</b><br>14:50~15:15   | <b>ハイドロキシアパタイト系可視光応答型光触媒</b><br>Visible light responsive hydroxyapatite based photocatalysts   |
| <b>材料</b>   | 長岡技術科学大学 工学研究院 物質材料工学専攻 助教 西川 雅美<br>Masami NISHIKAWA, Nagaoka University of Technology<br><a href="http://mst.nagaokaut.ac.jp/nosaka/index.html">http://mst.nagaokaut.ac.jp/nosaka/index.html</a>  |
| <p>■新技術の概要</p> <p>アパタイトは有機物に対して高い吸着能を有しているが、いずれ吸着量は飽和する。本技術は、アパタイトを構成する Ca イオンを V イオンで置換することで、吸着した有機物を可視光によって分解できる光触媒能を発現させ、吸着量の飽和を防ぐことができる。</p> <p>■従来技術・競合技術との比較</p> <p>アパタイトは光触媒能を有さない。また、これまでに製品化されている Ca イオンを Ti イオンで置き換えたチタンアパタイトは、紫外線照射下で光触媒能を発現する。しかし、太陽光、室内灯の大半は可視光であり、可視光照射下においては、本技術の可視光で駆動するバナジウム置換型アパタイトの光触媒能が優れる。</p> | <p>■新技術の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・可視光照射下で有機物を分解できる</li> <li>・アパタイトは無害で生体親和性の高い材料である</li> <li>・アパタイトは安価な材料である</li> </ul> <p>■想定される用途</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋内向け抗菌塗料</li> <li>・屋内向けシックハウス対策用塗料</li> <li>・抗菌用織布(マスク等)</li> </ul> |

|  |   |
|--|---|
| <b>5</b><br>15:20~15:45  | <b>世界に1つだけの新素材を創生するためのソフトウェア「魁」</b><br>Software "SAKIGAKE" for inventing the new composite material with rare properties  |
| <b>製造技術</b>  | 長岡技術科学大学 工学研究院 機械創造工学専攻 教授 田辺 郁男<br>Ikuo TANABE, Nagaoka University of Technology<br><a href="http://mcweb.nagaokaut.ac.jp/j/laboratory/laboratory_12">http://mcweb.nagaokaut.ac.jp/j/laboratory/laboratory_12</a>  |
| <p>■新技術の概要</p> <p>所望のハイブリッド特性を有する新素材を創生するためのソフトウェアを開発した。このソフトウェアは、(1)構成材料と重量比の入力に対して、できあがる新素材の密度、熱伝導率、比熱、線膨張率、ヤング率を計算する機能と、(2)所望の複数次特性値の入力に対して、そのハイブリッド特性を有する新素材を創出するための材料群と重量比を出力する機能の2つを有している。</p> <p>■従来技術・競合技術との比較</p> <p>「世界に1つだけの花」の如くに、比類なきソフトウェアである。創生する新素材へ所望のハイブリッド特性を付与することが可能で、イノベティブな開発を要求されている技術者の方々への明日への提案である。</p> | <p>■新技術の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状で世の中になく、全く新しい特性を有する新素材を迅速・容易に創生できる。</li> <li>・構造材料の密度、ヤング率、線膨張率、熱伝導率、比熱の5つの物性値を思うがままにコントロールできる。</li> <li>・筐体や構造体のような構造物から被膜材まで適用用途は極めて広大。構造体が機能を獲得できる。</li> </ul> <p>■想定される用途</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工作機械のさらなる超々精密化、超高精度化の支援</li> <li>・未来の自動車構造、明日の家電・オーティオなどに利用可能</li> <li>・IT 部品の超高機能化</li> </ul> |

|   |   |
|---|---|
| <b>6</b><br>16:05~16:30   | <b>生体用高強度低弾性チタン合金の開発</b><br>Development of Biomedical Titanium Alloy with High Strength and Low Young's Modulus   |
| <b>材料</b>   | 新潟工科大学 工学部 機械制御システム工学科 教授 村山 洋之介  |
| <p>■新技術の概要</p> <p>高齢化社会を迎え、骨折や脊椎に関する症例が増加する中、整形外科の現場において人体に害のない合金元素だけで構成され、弾性率が人骨に近く、かつ強度の十分あるインプラント材料の開発が望まれている。本研究で開発した Ti-Cr-Sn 三元合金および Ti-Cr-Sn-Zr 四元合金は、Ti-6Al-4V 合金並みの強度を持ち、50GPa 未満という極めて低いヤング率を示す合金である。</p> <p>■従来技術・競合技術との比較</p> <p>低弾性チタン合金は、現在、Ti-Nb 系合金を中心に研究開発が進められているが、Ti-Cr 系は充分強度があるとともに、Ti-Cr-Sn-Zr 四元系合金では、Cr と Sn の添加量により Zr 添加量の大きく異なる組成で、いくつかの低弾性合金が見出されている。</p> | <p>■新技術の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低ヤング率</li> <li>・超弾性</li> <li>・生体適合</li> </ul> <p>■想定される用途</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インプラント材料など医療用デバイス</li> <li>・スポーツ用品</li> <li>・輸送機器</li> </ul> |

## お問い合わせ

### ご相談 連携・ライセンスについて

国立大学法人長岡技術科学大学産学・地域連携課

Tel.0258-47-9279 Fax.0258-47-9040

e-mail [patent@jcom.nagaokaut.ac.jp](mailto:patent@jcom.nagaokaut.ac.jp)

<http://www.nagaokaut.ac.jp/j/soshiki/chizai/index.html>

学校法人新潟工科大学キャリア・産学交流推進課

Tel.0257-22-8110 Fax.0257-22-8123

e-mail [career-sangaku@adm.niit.ac.jp](mailto:career-sangaku@adm.niit.ac.jp)

<http://www.niit.ac.jp/info/support/center.html>

### 新技術説明会のお問い合わせは

国立研究開発法人科学技術振興機構

産学連携プロモーショングループ

Tel.03-5214-7519 Fax.03-5214-8399

e-mail [scett@jst.go.jp](mailto:scett@jst.go.jp)

<http://shingi.jst.go.jp/index.html>

## 会場のご案内



### JST 科学技術振興機構

#### 東京本部別館ホール

〒102-0076 東京都千代田区五番町7K's 五番町

●JR「市ヶ谷駅」から徒歩3分

●都営新宿線・東京メトロ南北線・有楽町線

「市ヶ谷駅」(2番口)から徒歩3分

## 「ロボットにふれて、未来を語ろう」を開催します。

日時 2015年5月30日(土曜日) 開場 12時 開始 13時～16時30分

場所 アオーレ長岡 ナカドマ、3階市民協同ルーム、3階テラス、市民交流ホールD

参加費 無料

### イベントの内容

幅広い市民の方に、生活に役立ついろいろなロボットにふれていただくとともに、堅いイメージのある機械や科学技術の意外な活用法を体験して、親しんでいただきたいと思います。

ロボットや技術開発の当事者が開場におりますので、開発にかかわるちょっと深い話も聞くことができます。会場への出入りは自由ですので、お気軽にお越しください。

こんなロボットが来ます！

#### 脳波で動くロボット 車いす

(長岡技大中川研究室)  
考えただけでロボットが動く、車いすが走る？  
3階テラスで体験していただけます。

#### 長岡高専 ロボコン出場ロボット

ロボコン出場経験のある「大犬闘」号(3階テラス)、「カタツムリ」号(ナカドマ)が登場します。

#### EMIEW(エミュ)2

(日立製作所)

自分で話して自分で動く、対話型ロボットです。  
(3階市民交流ホールD)

#### レスキューロボット

(Nexis-R)

もしもの時に大活躍！  
坂道も障害物も乗り越えて、会場を自在に走ります。

こんな楽しみ方もできます！

### 「不思議なインクで うちわに絵をかこう！」

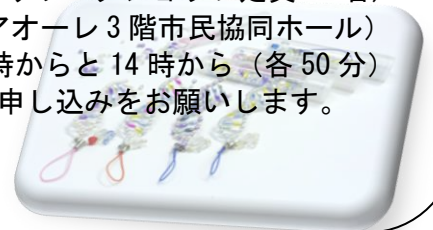
絵をかいて紫外線をあてると色が変わる？不思議なインクでうちわに絵をかこう！(ナカドマ)

### 「テクノミュージアム出張展示」

長岡技大で製作し、ロボコンでも活躍したロボットの紹介をはじめ、本学で開発された軽い金属など最先端の技術をご紹介します。  
(ナカドマ)

### 「アクセサリ・ストラップ作り ワークショップ」

- 機械の部品がかわいいアクセサリに大変身(アクセサリ作りワークショップ定員40名)
- DNAがビーズでおしゃれなストラップに(ストラップ作りワークショップ定員40名)  
(開催場所：アオーレ3階市民協同ホール)  
開始時間：13時からと14時から(各50分)  
\*事前のお申し込みをお願いします。



本イベントのお問い合わせ先

アクセサリ・ストラップ作成ワークショップお申し込み先

長岡技術科学大学総務課 TEL 0258-47-9202 E-mail takehi@nagaokaut.ac.jp



## 報道資料（学生の課外活動紹介）

平成 27 年 5 月 19 日

学生の課外活動紹介（ ロボコンプロジェクト ）

長岡技術科学大学  
機械創造工学課程 4 年  
伊藤 慎一郎

### 1. 概要

私たちロボコンプロジェクトは、4 月上旬に行われたビデオ審査を通過し、NHK 学生ロボコン 2015 本大会に出場することが決定しました。

### 2. ロボコンプロジェクトとは

本プロジェクトは ABU ロボコン(Asia-Pacific Robot Contest)に出場し、優勝することを目標として設立された学生プロジェクトで、正式名称は「長岡技術科学大学ロボコンプロジェクト」です。

設立は 2001 年で、2015 年現在にいたるまで NHK ロボコンへ出場し、優秀な成績を収め続けています。以下に実績を記します。

- 2011 年度 大学ロボコン 準優勝
- 2012 年度 大学ロボコン ベスト 4・アイデア賞
- 2013 年度 大学ロボコン ベスト 4・技術賞
- 2014 年度 大学ロボコン 準優勝・特別賞

また、各種イベントへのロボットの出展・見学会対応も積極的に行っており、技大祭をはじめとして小中学生向けの見学会や海外からのショートステイプログラムも受け入れています。

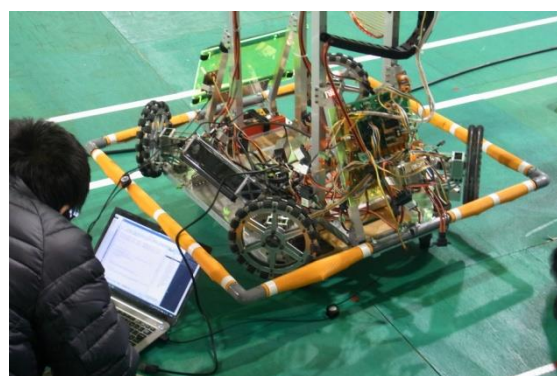
### 3. NHK 学生ロボコン 2015 出場

このたび 2015 年度チーム「NUTsHEADs」では競技に使用する 2 台のロボットを製作し、出場決定までに 3 度ある審査を通過しました。

現在は調整を行いつつ、実際に試合形式で練習しシャトルの返球率の向上に努めています。現在、大会まで残り 1 ヶ月、大会で優勝を収め、世界の舞台へ挑戦する切符を手に入れるべく日々精進しているところです。



左写真：4 月時点での活動風景



右写真：調整中の風景

ロボコンプロジェクトHP：<http://mcweb.nagaokaut.ac.jp/robocon/>

報道資料

平成27年5月19日

報道機関各位

長岡技術科学大学

赤十字水上安全法講習会開催のお知らせ

斎藤秀俊（長岡技術科学大学副学長・大学院工学研究科教授）

長岡技術科学大学にて下記の通り、赤十字水上安全法救助員養成講習会を開催します。水上安全法では、安全で確実な泳ぎの基本を身に付け、事故防止や溺者を救助し、応急手当をして、医師や救急隊員の手に渡すまでの正しい知識、技術を学びます。

「溺れた人を見たら、飛び込まずにすぐに119番通報を！」と周知しているところですが、自分の子どもだったら、飛び込まずにはいられないのが人情というものです。強力な泳力と、確実な自己保全ならびに溺者確保の方法を訓練すれば、入水し素手で救助することも可能です。陸からの救助から最終手段としての入水救助まで幅広く救助法をこの講習会で学び、訓練することができます。

本学における同講習会はすでに27年の歴史を持ち、これまでに500名を超す救助員を養成してきました。今回は、本学水泳部学生、長岡高専水泳部学生、一般の計20名弱が受講する予定です。ぜひ、訓練の様子を取材していただき、水の事故から命を守るために、市民に啓蒙していただきたく存じます。

記

期日

平成27年5月23日(土)、24日(日)、30日(土)、31日(日) 9:30～17:30

場所

長岡技術科学大学・物質材料工学専攻大学院講義室、室内プール

※映像に適した、特に動きの激しい救助法の訓練は、5月24日、30日、31日 13時30分以降で、本学室内プールで行います。

以上



2015年5月吉日

地元企業で勤務されている長岡技術科学大学卒業・修了者の皆様へ

長岡技術科学大学 学長 新原 皓一

長岡技術科学大学地元交流集会への参加のお願い  
～地方創成を目指す新たな開発スタイル・技大を使ってみませんか？～

春の兆しを感じられる季節となりましたが、皆様には益々ご活躍のことと存じます。

さて、長岡技大では、卒業・修了者と教員・現役学生を交えて情報交流ならびに技術的連携を行って、双方の有意義な活動と交流を支援していきたいと考えております。特に、高水準の技術力を有する地元企業で活躍されている皆様をはじめとした、現場技術者との技術的連携・協働活動は、生きた課題への取り組みを通じた高度な「技学」教育の充実と、地元企業の更なる競争力向上に貢献できると考えております。そのためにも、地元の企業と長岡技大との有機的なつながりを掘り起こす、卒業・修了者の皆様とのネットワーク交流を活性化することが必要であると考えております。

以上のような趣旨から、地元企業に勤務されている皆様を中心とする「技大地元交流集会」を大学として開催したく、初めてとなります第1回の集会を別紙要領で執り行いたいと存じます。万障お繰り合わせのうえご参加くださいますようお願い申し上げます。

ご多忙中のところ大変恐縮ですが、6月12日までに下記回答事項を回答先まで、ご連絡を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら皆様のますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

#### 回答事項

お名前、お勤め先、ご連絡先(電話・E-mail)、講演会へのご出欠、懇親会へのご出欠

#### 回答先

E-mail : nticstaff@jcom.nagaokaut.ac.jp

FAX : 0258-47-9183

(長岡技術科学大学テクノインキュベーションセンター)



## 第1回 長岡技術科学大学地元交流集会

～地方創成を目指す新たな開発スタイル・技大を使ってみませんか？～

1. 日時 2015年6月27日(土) 12:30～17:40
2. 場所 燕三条地場産業振興センター メッセピア  
[三条市須頃1-17, 0256-32-2311(代)]
3. 次第
  - 12:30～13:00 受付(懇親会の受付も同時)
  - ・講演会 メッセピア 4F 大会議室
    - 13:00～13:15 開催の挨拶  
学長 新原 皓一
    - 13:15～13:45 産学地域連携活動状況とスーパーグローバル大学創成支援事業の紹介  
理事 副学長(産学官・地域連携担当) 東 信彦
    - 13:45～14:00 質疑応答
    - 14:00～14:30 休憩
    - 14:30～16:00 講師による話題提供とフリートーク  
司会 理事 副学長(教育研究、将来構想担当) 武藤 睦治
      - 1) 話題提供 「技大 OB/OG ネットワークを生かす会社/個人の横のつながりから生まれる開発連携」  
三条市が進める先駆的分野進出支援事業やコト・ミチ人材連携他, 2～3名の講師よりこれからの開発スタイルを紹介いただきます.
      - 2) フリートーク 「企業で開発を進める上で、技大をつかうためには？技大に求めたい役割は？」
  - 16:00～16:10 閉会の挨拶, 懇親会への案内  
産学連携担当 機械創造工学専攻 永澤 茂
  - ・懇親会 メッセピア 1F レストランメッセピア
    - 16:00～16:10 受付(懇親会のみご出席の方)
    - 16:10～17:40 懇親会 (会費制 3,000円/人, 事前申込)  
挨拶乾杯 学長 新原 皓一

#### 4. 連絡先

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町 1603-1

長岡技術科学大学

機械創造工学専攻 教授 永澤 茂

TEL: 0258-47-9181

E-mail: snaga@mech.nagaokaut.ac.jp

産学官連携コーディネーター 岸本 真一

TEL: 0258-47-9182

E-mail: kishimoto@vos.nagaokaut.ac.jp

以上

(回答用紙)

長岡技術科学大学テクノインキュベーションセンター 行

FAX : 0258-47-9183

E-mail : nticstaff@jcom.nagaokaut.ac.jp

## 第1回 長岡技術科学大学地元交流集会

### ご出欠回答書

下記内容をご記入の上、2015年6月12日(金)までに、メール又はFAXにてお送りくださいますようお願い申し上げます。

お名前

---

お勤め先

---

ご連絡先

電話

---

E-mail

---

講演会 (いずれかに○を付けて下さい)

・ ご出席            ・ ご欠席

懇親会 (いずれかに○を付けて下さい)

・ ご出席            ・ ご欠席

ご回答ありがとうございました。